

平成22年度事業報告（書）

法人会を取り巻く環境は依然として厳しい状況の中で、全国100万会員とともによき経営者を目指すものの団体として、納税意識の高揚、会員の研鑽、地域社会への貢献を柱として諸活動を展開いたしました。

なお、課題であった公益法人制度への対応につきましては、年度内の認定取得を目指して取り組みました。おかげをもちまして、2月に公益認定の答申を得て新年度から公益社団法人富山法人会としてスタートすることになりました。

1、税制改正への提言活動

提言に向けて実施された税制アンケートの結果を踏まえ、「平成22年度の税制改正に関する提言」がまとめられました。

10月に実施された全国大会熊本大会において「中小企業の活性化に配慮した税制の構築」を盛り込んだ大会宣言が、全国100万会員の声として採択されるとともに、その実現に向け関係機関への要望活動が展開されました。

当会でも、税制委員を中心に要望意見を取りまとめ、要望大会に参加するとともに、会長、税制委員長ならびに役員が地方自治体並びに地元選出国会議員に提言書を持参して要望活動を展開しました。

2、社会貢献・税の啓発活動の充実

地域社会への貢献活動は、青年部会・女性部会が中心となって積極的に取り組み、7月の立山カルデラ砂防体験学習会を青年部会が、11月の税とのかかわりを学ぶ「法人会租税バス」は女性部会が担当しました。

租推協主催の租税公開教室には青年部会が市内の小学校の派遣講師を務め、楽しくわかりやすい租税教室の開催に努めました。本年度は4校を担当し、継続に向けて意欲的に取り組みました。

女性部会は管内全小学校の高学年を対象に実施された第6回「法人会こども税金クイズ」と本年度からの「税に関する絵はがきコンクール」募集活動を展開しました。市租推協の暖かい協力と部会役員のかみ細かな学校訪問により、4,636枚、対前年140%の応募数となり、382名（クイズ）10名（絵はがき）の子供たちに図書カードを贈りました。

なお、3月11日の東北大震災への支援事業として、会員5000社の総意として50万円を北日本新聞社を通して被災地にお届けしました。

3、研修関係の充実

法人会の研修会活動は会員の自己啓発を支援するための最重要事業であり、全国に誇る研修参加率の維持向上を目指して取り組みました。

税法税務研修の定例開催は毎月第二火曜日を中心に開催し、毎回300名近い参加を頂いています。税務署ご担当官の税法税務研修会と著名講師による法人会セミナーは季刊で開催し、より効果的に早め早めの案内、ホームページの事業案内など、参加しやすい研修会を目指しました。

また、公益性を高めるため、HPなどで一般市民への参加も呼びかけました。その他、支部会員研修会も各地で開催、役員研修会・部会員研修会など延べ59回、7,566社の参加を得て、研修参加率は156%となりました。

なお、参考冊子として、会社の税金ガイド・決算申告の実務・税制改正のあらまし・会社取引の税務・主要税法便覧・決算と申告Q&A・助成金のポイント・源泉所得税・ダイアリーなどを出席者へ配布しました。

4、広報活動の充実

法人会のイメージアップ・知名度向上や会員増強を図るための広報活動の充実は、より公益性を高めるよう配慮しながら、県下の法人会とともに、ホームページの充実を図り、きめ細かな情報提供に努めました。

富山法人会報は78号・79号の発行を通して、関係団体等、より多くの閲覧を考慮し、一般の方にも配慮した紙面づくりといたしました。

5、組織の強化・充実

会員加入率62%を掲げて増強推進活動を展開するとともに、保険取扱3社の協力を得ながら会員の拡大に努めましたが、3月末会員加入率は56%となり目標値を大きく下げて達成はなりませんでした。

本年の新入会員は25社、解散等による脱会87社を含む退会が355社となつて、対前年の加入比率76%、同脱会比率は224%の厳しい状況となりました。

青年部会

栃木県で開催された「法人会全国青年の集い」には、当部会員10名が参加、全国から参加した1300名とともに「とちぎ見聞録」のテーマに沿って租税教育事業プレゼン、三遊亭円楽師匠の講演聴講、参加者との交流を終えて、帰路には信濃路での視察研修を取り込んだの懇親交流の機会となりました。

今年も社会貢献活動を積極的に取り組むほか、税務座談会、研修会等、部会員同士の交流を図りながら部会の活性化に努めました。

女性部会

女性部会は親会・青年部会とともに諸活動の充実に努め、研修事業と社会貢献活動を中心に新鮮な事業展開で参加者の拡大を目指しました。

また、県下の女性会員25名の会員とともに第5回女性フォーラム岡山大会へ参加し、租税教育の事例発表と記念講演会、全国の会員との懇親交流会に出席、翌日は岡山の歴史にふれて帰路にと充実した研修会となりました。

女性部会の視察研修会は参加者の交流親睦を目的として選択された奈良方面、遷都の歴史を学んだ旅となりました。また、6回目となった「こども税金クイズ」、全国展開の税に関する「絵はがきコンクール」の応募はがきの集配と集荷、応募作品の抽選にいたるまで、多くの役員各位の手に渡り、専門家の見解と指導も入って、県連選出へ託されました。

楽しみを付加しながら、会員増強に繋ぐ、部会マニュアルは4名の新会員の加入を果たしています。

7 福利厚生事業

法人会の活動を支え、財政面の大きな柱である大同・AIU・アフラックの協力3社が積極的に推進活動を展開。支部会議・研修会等にも積極的に参加して福利厚生事業に対する理解と制度の意義、推進に努めました。

厳しい経済状況の中、大型保障制度創設40周年キャンペーンの2年目として目標値達成に向けて継続的・計画的に支援しました。

また、かんぽ生命の簡易保険事業の果たす役割を大切にして維持に努めてまいりました。